

Deep-techと産学連携で脱炭素社会の実現を牽引します

ドローンとAIによる バイオマス量自動算定システム

- CO2森林吸収の権利化
- 間伐材マネタイズソリューション

「これまでアクセスできなかった地形にある広範囲の森林画像情報と深層学習を組み合わせることによって、森林の状態を自動的に評価することが可能になりました。」

山形大学農学部教授 ラリー・ロペス(森林学)

| 画像収集 | アノテーション | 実地調査 | バイオマス量算定 |
|--|--|---|--|
| <p>森林と樹木はドローンを使用して上空から画像を撮影し、オルソモザイクを作成します。</p>  | <p>収集した森林の画像から樹種を判別し、本数や種類数等のデータを集めます。</p>  | <p>ドローンの画像からオルソ(補正画像)と現地状況を確認します。</p>  | <p>ドローンの画像から、デジタル化されたバイオマスを計算します。</p>  |

解決すべき社会課題

1. 所有者不明の森林は、九州より広い410万ha
2. カーボンニュートラル実現コストは年間10兆円
3. ウッドショック～価格高騰でも間伐が進まない日本の森林



森林総資産2,000億円でIPOを目指します

株式会社Forest4.0

山形県米沢市桜木町2番47-2号
 設立 2022年4月21日
 資本金 200万円(800万円 増資予定)
 代表者 相田 晃輔(東 範男共同代表就任予定)

【事業概要】

1. 林業10次業化に関する事業
2. カーボンクレジットの売買
3. 再生可能エネルギー電力及び熱供給事業
4. カーボンニュートラル及びSDGsに関するコンサルティング業務
5. 農林製品の生産、製造及び販売